水曜日は独断 Lets グルメ

ファンと家族と味わった三船和子の幸せの中華

八王子・中国料理「海苑」

「だんな様」などのヒットで知られるデビュー45周年の歌手・三船和子は、自宅から車で10分程度の八王子市にある中国料理「海苑」に、30年前から頻繁に通っている。仕事スタッフ、ファンの後援会の集まりだけでなく、家族のお祝い事などにも利用している。行けば必ず注文するという、大好きな「海鮮汁そば」「フルーツ入り酢豚」などを食べて、三船は満足していた。(細貝　武)

約30年前から

三船が「海苑」に行き出したのは、オープン当初から約30年がたつ。そのころ三船は、専業主婦だった。というのも、1965年に「ベトナムの赤い月」で歌手デビューし、「女のさだめ」や「他人船」などを次々とヒットさせて、前途洋々だった3年目に、交通事故。2か月間入院したが、歌声が出なくなってしまった。悲しみの中、引退したのだった。その間に結婚し、出産、母親として、妻として、夫が継いだ家業の建築業のサポートなど、毎日を忙しく過ごしていた。

「主人の仕事仲間の人たちが、大勢来るわけですよ。そうすると、みんなでワァワァ言いながら食べるには、中華が一番ですからね。で、ここほおいしいでしょう。だから、なにか人が集まるときは、ここに決めていたんですよ」と三船は当時を思い出しながら振り返った。

声も奇跡的に出るようになり、14年間のブランクの後、82年「だんな様」で歌手復帰。その後は、自身のファンの人たちとの交流会、新曲発表、さらに子供たちの成人式や入学式などそれぞれの祝い事、孫たちとの食事会など、なにかにつけ頻繁に利用してきたという。

汁そばに酢豚

「ここに来たら、『海鮮汁そば(1470円)』『フルーツ入り酢豚(小=1260円)』『フカヒレの姿煮込み(50㌘=2625円)』『芝エビのチリソース煮(小=1680円)』は必ず食べますね。どれも本当においしいんですよ」と絶賛する。「海苑」のお客収容人数は(イス席70人、2階はお座敷)ホールもあり、大きいお店だ。従業員15人が忙しく動き回る。味付け、スタイルは、上海と広東料理のミックスとか。「中華の円卓って、みんなで話しながら食べれるから最高ですね」とまた笑顔で強調した。

他の歌手には無い、数奇な運命をたどってきた三船にとって、「海苑」はファンや家族とともに味わう"幸福の味"の原点だった。

大好きな中国料理を前に笑顔を見せる三船和子(カメラ・頓所　美代子)【上】気心の知れたスタッフ。左から総支配人の吉田賢治さん、紅林弘巳さん、三船、竹内貞夫さん

45周年記念曲「春告げ鳥」好調

Q:45周年記念曲「春告げ鳥(4月7日発売)」が順調な売れ行きだ。人生いろいろあったけど、二人のきずなを確かめ合って生きる夫婦歌だ。作詞はやしろよう、作曲は花笠薫。また、同時発売の「三船和子全曲集(3000円)」も好評だ。三船の11月の主なスケジュールは、1~20日までは三重県長島温泉・湯あみの島で公演。コンサートは24日=昼・静岡県牧之原市榛原文化センター、夜・静岡市清水文化センター25日=昼・伊東市観光会館、夜・修善寺総合会館26日=昼・浜松市天竜王生ホール、夜・浜松市なゆた浜北・なゆたホールで行う。

「海苑」正面入り口

中国料理「海苑」
東京都八王子市台町3の3の5(富士森会館)☎042・622・6241。JR八王子駅南口から車で6分、徒歩約20分。富士森公園脇。営業時間は午前11時30分~午後10時まで。ランチタイムは11時30分~午後4時45分まで。年中無休(元日は休日)。ランチセット(1580円)や飲茶ランチ(1500円)が好評だ。また、産地気仙沼直送のフカヒレ一人前50㌘(2625円)は絶品。ディナータイムでは、各種コースが取りそろえてあり、選べるコースメニューが評判。単品では、海鮮かけご飯(1470円)、鶏肉とレタス入り炒飯(1370円)、五目汁そば(1160円)などが人気。

本紙持参でサービス

中国料理「海苑」八王子店では、27日付のスポーツ報知の掲載紙面を持参したお客様には、ランチタイム時ならソフトドリンク(400円相当)を、午後5時以降なら、デザート(杏仁豆腐など)とソフトドリンクを付せて(約800円相当)無料でサービスします。期間は10月27日~11月3日までの1週間。

武のひと言

たまらない気仙沼直送のフカヒレ

三船の言うように、確かに中国料理は、円卓で大勢が顔を合わせて談笑しながら食事できるメリットはある。初めは夫の仕事仲間接待の手助けだった食事会も、28年前からは歌手として再復帰した自分のためにも利用している。ファンとの交流、そして子供たちと、いまは孫たちの祝い事などだ。「家から近いし、おいしいし、ここに集まるんです」。そのときの、うれしそうに食べて話す三船の笑顔が目に浮かぶ。

店に来たら絶対に食べるという「海鮮汁そば」をまずは口に…。エビ、ホタテ、イカなどが入っていて、だしの塩味もちょうど良い加減で、うまい。次は「フルーツ入り酢豚」。パイナップルが入っていて、甘酢が効いていても美味。もともと酢豚は好きだから、一気に食べ終えた。すると、スタッフが、「うちのフカヒレは、産地・気仙沼からの直送ですから」と自慢げにお勧めだ。なるほどフカヒレがたっぷりと入っていて、とろっとした感触と、何とも言えぬ味がたまらなかった。うまいのはもちろんだ。

7月にも、ここでファンを集めて食事しながら、新曲「春告げ鳥」の発表会を催した。「喜び悲しみ…(中略)いろいろねぇ…あったけど(後略)」という詞は、まさに三船の人生そのものを歌った歌だ。切々と歌う三船の歌にはそれだけに実感がこもる。数多くの歌手を見てきたが、三船ほど特異な運命の歌手は見たことがない。交通事故で声が出ず、引退し、14年後に奇跡的にカムバック。しかも再デビュー曲「だんな様」が大ヒット。そのときも「私の大事なだんな様」と実体験を歌ったものだった。説得力があるから、聴く者に訴えるのだろう。その意味でも「春告げ…」はヒットの気配を感じる。

(細貝　武)